

(19) 1

トキナセ

Vol. 2. No. 3

1952年3月
分 敷昆虫同好会

岡山県と関連している鳥取 県の蝶類分布状態

西村公夫

岡山県と鳥取県と兵庫県とでは山脈背嶺地帯では一様に普遍的に同じ様な昆虫の分布状態を示しているが、特に海拔の低い地方に於いては多くの同一種の進入が極めて多く見られる。ギフチョウやウスバシロチョウはその平凡な例に過ぎないが、それでも鳥取県の方が北方系に属している度が強いうるに見られる。ギフチョウは鳥取県のものは黄帯が著しく巾広く、ウスバシロチョウは夏日本に見る鱗粉の少いものの尤方に分布する黄色の甚だ強いものなど諸々の点がその一例である。他の種で岡山から鳥取へ侵入したと思はれるものはウラジロミドリシジミ・タイワンコシジミであろう。この両種は上石見又は赤久寺へ入っている。上石見には岡山に多いクロソバメシジミも分布している。これはこの施設に陰陽を結ぶ大街道があるからであろう。ヤマキチョウの南進問題に就いては不明であるが、私は泰久寺で確実に採集をしているが、岡山県側の確実な記録は知らない。尚これに一毫も重複分布や発生の問題に就いて詳しく調べると面白い結果がまとまるものと思うが、岡山県下の方々には是非これらの背嶺地帯を徹底的に調査していただきたいと思う。私共は鳥取県或いは兵庫県の方をまとめて調査をすべきであるから、これらの問題を適当に解決へ近づけたいと思う。

朗報 一 是食

私の親翁(兵庫県齋原)が県北の湯本附近の大ダナ林の開拓を始めている。これは一昨年末から始まっているが、もう1,2年はかかるとのと思う。私自身兼て行うと思つていい所に向うから長いと云う通知もあるがそのままにしておきたい。県下同好者諸氏も勿論無償で宿泊出来るのであるからせいぜい旅館に利用してほしい。詳

2 (20)

しくは近い中に報じたいと思つてゐる

(西村公元)

蝶の採集と研究〔前回続〕 水野弘造

小学校5、6年生の時は、採集をやめていたが、卒業して廿日市中学校に入學してから又始めた。そして新しく標本箱に入つたそのとがなりからか、その主なるのを記す。

- 佐伯郡観音山（約600メートル）にてアサギマダラ採集。
- 佐伯郡宮島（日本三景の一）宮ヶ浦にてケツマシジミ採集。
- 同地にて、ウラナミシヤノメ採集。
- 佐伯郡宮内村にて、ムラサキツバメ採集。

全國的に見てもあまり多くない、ムラサキツバメ、サツマシジミ等採集出来たのは面白い。そして一曰に云つて、『同地では南ア系昆虫が多い』と云える。このように廿日市中学校に入つてから、グループの皆と一緒に佐伯郡の蝶類は残らず取ろうとはりきつてしまつたのであるが、家の事情で今住んでいる場所、岡山県吉備郡総社町に移つて來たので意を果すことが出来なかつた。

▲岡山県吉備郡総社町附近に於ける

蝶類

さて総社町に移つても採集は止めない。さっそく隣の小学校5年生の平田君に案内をたまへ、附近の櫻谷へ、同地に於ける最初の採集に出かけた。丁度桜の花が満開で、宮内村にはれば、ギフチョウが取れさのにしそれが残る。しかしギフチョウはいないにしても、春独特の蝶ツマキチョウ、ミヤマセセリ、コツバナ等飛んでいた。ミヤマセセリとコツバメは初めてだった。かなりの羽模があつたので、そこが美に入り、それから今は毎日のようになり全へ行ったものだ。次に1951年櫻谷及び他の附近で採集したものを見よう。

- アゲハ蝶科では、

ナミアゲハ、クロアゲハ、キ、クロタイマイ（アオスジアゲハ）、

ジャコウアゲハの五種類でジャコウアゲハ、キアゲハ、クロアゲハは多くない。



○シロ蝶科

モンシロチョウ，ツマキチョウ，キチョウ，ツマクロキチョウ，モンキタヨウ，スジグロキチョウの六種類で、ツマクロキチョウは少い。特に豪型が少いようである。

○セアリ蝶科では

イチモンジセリ，ハナセセリ，ケヤバネセアリ，キマダラセセリ，ミヤマセセリ，ホソバセセリの六種類で皆普通であるが、ミヤマセセリは春だけしかいない。

○タテハ蝶科では

キタテハ ニオドシチョウ，コムラサキ，イチモンシチョウ，コミズシ，ホシキシ，メスクロニヨウモン，ミドリヒヨウモン，ウラギンスジヒヨウモン，ツマクロヒヨウモンの十種を取つてあり、ウラギンスジヒヨウモンは雌雄型ヒヨウ珍らしい種であった。これについては後で述べよう。ヒヨウモン類ではナスクロヒヨウモンが一番多く、ミドリヒヨウモン，ウラギンスジヒヨウ等は少い。室内村では取れなかつた。ホシキスジが普通にいる事は面白い。

○テケク蝶科では

テンクチョウの一種で櫻谷附近では少い。

○シジミ蝶科では

オオミドリシジミ，ウラナミアカシジミ，アカシジミ，ミスイロオナガシジミ，ムラサキシジミ，ヤマトシジミ，シルビアシジミ，ツバメシジミルリシジミ，コツバメ，ウラナミシジミ，ベニシジミ，ウラギンシジミの十三種を取つた。中のコツバメは春だけ出る、オオミドリシジミ，ウラナミアカシジミ，アカシジミ，ミスイロオナガシジミ等のゼフィルスは六月頃だけしか出ないので、時期を逃がしては取れない。又これらの蝶は他の蝶のように、花へ集つたり、樹液を吸いに来たりしないで、くねくねみづなうの葉の上にしかないから、そんな事を知つておかねば取ることは出来ない。シルビアシジミは、一匹しか取れていながら、まださがせば取れると思う。

以上四十八種を櫻谷附近で取つたのであるが、いることはわかるつゝで、まだ取つていないので、アカタテハ，モンキアケハ，ルリタテハ，コマダラチョウがある。又九月から十月まで都淀郡山手村の福山に移り集に行き、アサキ

4(22)

マダラ、クモガタニヨウモン、オオウラキンニヨウモン等標名にはいなき種類を取った。なま倉敷昆蟲研究会の入会しようと、ここにハクロツバメシジミ、カラスアゲハ等いさり並んで、山側の瀬、清音村黒田には、ウラジロミドリシジミ、ウスイロミドリ等の珍らしい種類がいると云ふれど、又名所として有名な吉備郡池田町新宮では、ムラサキツバナがいさりを見た。

1951年はあまり取れなかつたが、今年はこれを採集することを目標とする。(つづく)

(訂正)

前号この文中にゴイシシジミと云うのが出ていたが、これはゴイシシジミのあ



- I. ムラサキツバナ (宮内村組口)
- II. アナキスダラ (麻村觀音山)
- III. テングチヨウ多數飛水地(秋)(廿日市牛津放牧庭)
- IV. サツマシジミ、ウラナミシヤノナ(宮島・白ヶ浦)、
観音山は極樂寺山と云うのが本当らしい
- V. テンケチヨウは観音山方向より一通に海に向って飛んで行くがいつも一羽体
つである、能美島に行く少しりが途中で向
きを變えるものもあるらしい。

ついでに前号にあけた蝶類の内、餘らしいものの採集日のわかつたものがあるるのでお知せする。

○ミヤマカラス { 1946年 7月30日 }
" " 8月4日 /

○モンキアゲハ { " 8月13日(広島市) }
" 10月3日 /

○コノマキヨウ { " 10月10日 } /

○ギフチヨウ { 1947年 4月中旬 } 本種は観音山にと産すと云う。

(23) 5

湯原附近ギフチョウ の新分布地

岡山県のギフチョウ最大の产地として知られる湯原町附近も、岡町より以北には多数を産すがそれ以南はあまり聞かない。21-4-1951 我々が同方面へギフチョウ採集旅行を試みた際、勝山町からバスで途中下車徒步で採集すると、はからずもギフチョウが飛び出して我々を驚かした。そこで湯原町以南に於いて次の二地を記録したので記しておく。

- (1) 勝山町下眞賀 21-8-1 早採集
(2) " 真賀 2. 早採集
なお同地より湯本迄約20kmの向は本種を一頭も見ながつた
最近知気部篠山にも本種を産すと云ふ報があるが正しいとすれば本県に於ける産地は可成海岸に近くなつて来る
今春せひ皆さんの手で調査したいものである。〔8-3-1952〕

(貢瀬義躬)



大山で採集された 美麗ちよつきり うむ12種

1951年6月、山川東平先生、青野、白神兩氏と筆者で伯耆大山へ昆虫採集旅行を試みた際、次の様な美麗且比較的珍奇な2種を記録したのでお知りておく。

(1) *Byctiscus venustus* PASCOE
いたやはまきちよつきり

(2) *B. regalis* ROELofs ヒコは
まきちよつきり

(1)は白神昭氏により、(2)は筆者が、いづれも23日、Beatingにより採集したものである。同定者は山川東平先生。2種とも比較的個体数は多くないようで各1個体得られたのみ。(1)の標本は倉敷青陵高校に、(2)の標本は筆者が保存している。

(小野 洋)

児島の山々を眺め て感じた事

17日に私はその好天気にさうわれて福田町呼松附近の山に登って見た。そのあたりで一番高い峯に登って児島半島を見渡してみた。大観に見て松ばかり、そして多くの山が赤い山はだをあ

日 (24)

らりに生き出して居る。土地の人の話によれば戦時中のかんばつによってこの森になつたとの事、話がそれたがまづ現島全島には望ほばさうである。唯局部的に食草がわざかに散在しているらしい。だからやたらに出かけろよりも。こう云う面にくわしい人の御案内を乞いたい。もうした方がよいと思う。こう云う事をわざわざここに云うのは地図の記述と實際が一致していないからである。現状は話しながらないほど荒れている。と云つて私が歩いたわけではないのだから局部的に有望な所があるにちがいないでしょうが、重ねて地理のくわしい方に是非御案内を願いたい。

[船越俊平]

蝶の私の初見

モンシロチョウ	三野(山)	1952.3.15.	平地	(西)	0	12~3°C
ヒョウモン(編者注キタテハ?)	〃	〃	〃	0	12~3°C	
ララアミシジミ	福田(鳴島)	〃	18	8	10°C (?)	
キチョウ	倉敷西津	〃	〃	8	10°C (?)	
アカタテハ	福岡(鳴島)	〃	17	300m位の山頂	0	13~14°C

[船越俊平]

アブがモンシロチョウを襲う。

古い事でどう僕の記憶に無いことだが、先日小学生の時書いた日記を読んでみると次の様な面白いことがあった。

1947年7月8日(火)晴、学校から帰って國語と音楽の勉強をすませて蝶を探せり。たがたいしたものは採れなかつた。帰りに面白いものを見た、それは、モンシロチョウが飛んでいるところをアブが飛んで来て、それをかみ落し、養分を吸つていたことである。……といった模様なものであり例のなりことではないかと思ふ。記述にないので書きりとしないがアブはたぶんシオヤアブだろうと思う。やりたしては僕が廣島県佐伯郡宮内村にいた頃、一番よく採集に行った所である。

[水野弘造]

飼育ギフチョウの早期羽化

去る3月16日、永らく見なかつた飼育箱をのぞいたところ、ギフチョウが羽化し、

7(25)

既に固化した死体を発見した。

それは筆者が1951年1月23日伯耆大山で本種幼虫1個体を採集2個体立石群
底に遡りし赤い白毫で飼育中の1個体が羽化したのである。固化的程度か
う列化したのはかなり前と考えられ、天気がよく気温の高かった3月8日頃か
或はもと前の半ば頃とも考えられるが、必ず8,9日頃と考えた方が妥当であ
る。まだモンシロチョウを見られなかつた頃頃、本種が羽化したのは面白いと
思われる所以報告しておく [小野洋]

岡山県にちなんだ話題

一昨日50年に大山え行つた時、丁度山の家に泊つてゐた所、變る變る牛名
の岡山県の人めぐり合つた。彼の入連も明郎で旅行のすきな人らしい様だよ
うだ。最初用山市だと云つていましたが中学生位の昆虫採集家が弟づれで乗入を
いつしょに来ていますらしく、1泊2日で帰られた様ですが、仲々懶れです。帰
にアサモマタフの音を進呈した。その次は瀬戸町に住む山本さんに岡山市に
住む菅勉さんと云う二人の鉄道員です。私のすぐ横の裏台に来たのですぐに停
良くなり、いつしょに大山連山横断に行き私は案内をしました。その次の日も
二人は登山して飲まずに帰つて行きました、大変な馬力です。しかも昨年7月
下旬には上萬地→鳥々の大遠征です。私は残念ながら参加しませんでしたが
二人に昆虫を頼んでおいた所3頭の蝶をとつてくれました。ウラジヤノメ
キマダラヒカゲ、キバネセセリの3種です。もう1つは倉敷に住むと云う35,6
の人です。大変旅行好きと見え、一ヶ月ほど一人でずっと中國山脈めぐりをして
いるそうです。種々面白い話を聞かせてもらひ、その前には帝釋峠と越後山
に行かれた相です。帝釋峠はものが高価で宿題をし支780円とられた相です
又越後山ではバス代が1時間以上でたつた20円しかも山の家では大山より美し
くたつた60円だった相です。これまでその下代は高くなつたり安くなつたり二度
べつくりと云う所です。以上岡山県にちんだ話題として第一に報告、第二に記
念の3頭の蝶の事、第三に珍談を記してみました。鳥取県でも汽車の中で岡垣
氏とシータテハの話をしていると椎茸と向違えて横から椎茸の説を持込んでと
んた話になつた事もあります。時にはこのようなユーモアも面白いと思ふ一文
記してみた次第です。 [K.N]

8(29)



筆者の飼育箱のトコロ、種々な昆虫が其半艶丸こんとする者
をがてもじつれらうれしい暖い日は、夏を待つていろ者か、秋
への考えもおもじめ新しい希望志物一つぱいに拘りて持つて
いる事でいた。これら之の昆虫は、(1)蝶、(2)幼虫、(3)卵で、
(1)には〔蝶〕アゲハ1、クロアゲハ2、モンシロチョウ1、
〔蛾〕ヤママユ1・コスズナ(セスジ?)1、イラガ2、その他判明しないもの3種、
(2)では〔蝶〕シガバチ巣2ヶ、セイボラ5、〔蛾〕メイガ糞1、〔虫〕コマタラカミ
キリ2、ラミーカミキリ1、タマムシ糞2、(3)では、クヌギガメ数卵等現在い
ます。なお次号は皆さん之の飼育箱をより気付いています

〔近藤光宏〕

〔編集後記〕

春ヒ云つても未に春らしい日にあまりないどうです。寒いのは我々にしつれ
野山へ採集にも行けず又こうしてがりを切る私をここでらせますし、ほんとに
寒いのはにかけてすむ、けれど少し暖いとうてあれば、それがしゆしがい、
一昨日彼岸の中日には祖籍へ旅用具も持つて暮れまいに行つたよな事です、
でもをがてもとの春になり色々な昆虫が飛出下ことでしょうし皆さんと共に
活やくいたしましよう。それはさておき、本号すずむしが皆様の熱烈なる御賜
力によりまして、少々
遅れたとは云え、かな
り順調に行つた事は何
よりあります。しか
しながら印刷着床款で
あり何分見にくく所が
ありますので、お詫び
いたす次第であります。

すすむしオ2巻第3号

昭和27年3月23日印刷

昭和27年3月26日発行

編集者

近藤光宏

印刷者

全

発行所

倉敷市新川町

倉敷西小学校理行教室内

倉敷昆虫同好会

以上